



## ◆新◆春◆メ◆ッ◆セ◆ー◆ジ◆

### 協会創立20周年を迎えて ホスピス緩和ケア協会の新たな挑戦



NPO法人  
日本ホスピス緩和ケア協会  
理事長 志真 泰夫



2011年の年頭にあたって、日本ホスピス緩和ケア協会の会員の方々にこれまでのご支援とご協力に感謝するとともに、20周年というこの区切りの年に新たな道に踏み出すべく、メッセージを送りたいと思います。

日本ホスピス緩和ケア協会（以下、当協会とする）は、健康保険における「緩和ケア病棟入院料」の新設を機に1991年10月に「全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会」として創立されました。爾来、20年余りわが国におけるホスピス緩和ケアの普及と実践に力を入れてきました。とくに、ホスピス・緩和ケア病棟の普及とそこにおける治療とケアの質の向上に努めてきました。そして、2004年には「緩和ケア診療加算」の新設を受けて、一般病棟へのホスピス緩和ケアの普及を目指す緩和ケアチームや在宅ケアへのホスピス緩和ケアの広がりを後押しすべく、「日本ホスピス緩和ケア協会」と名称を変更しました。そして、2007年10月には「特定非営利活動法人（NPO）」を取得し、法人格を持った団体として再出発をしました。

今日、日本緩和医療学会はじめホスピス緩和ケアに関連する団体が増え、その活動も活発になっています。したがって、当協会は何を目的として、どこを目指す団体なのか、明確に示す必要があると思います。

わたしは、当協会が「専門的なホスピス緩和ケアを提供する施設と個人からなる団体」として、「専門的なホスピス緩和ケアの普及と質の向上」に努めることが使命だと考えています。

そのために2010年度年次大会の基調講演でお話したように当協会の5つの事業を「選択と集中」の原則に基づいて整理する必要があります。当面するこの2年間に取り組むことは次の2つです。第1は「ホスピス・緩和ケア病棟の質の評価と質の向上」です。この事業は10年余りの実績はありますが、まだまだ不十分であり、改善の余地があります。とくに2010年に日本医療機能評価機構の「緩和ケア機能Ver.2」の評価が開始となり、会員施設の関心も徐々に高まりつつあります。当協会独自の「質の向上にむけた取り組み」と合わせて、具体的かつ現実的な質の評価と向上を目指したいと思います。第2は「ホスピス緩和ケアの専門的かつ継続的な教育研修のシステム作り」であります。これはすでに教育支援委員会で「ホスピス・緩和ケア病棟における実習を含めた医師の教育研修の指針」の作成、さらに、ホスピス・緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅ホスピス緩和ケアで働く看護師への「継続教育カリキュラム」を作成するための取り組みが始まっています。幸い日本緩和医療学会の「緩和医療専門医」の認定も順調に始まり、日本看護協会の緩和ケア領域の認定看護師も増えています。これらの団体との協力も視野に入れて、教育研修に力を入れてゆきたいと思えます。

さらに、2010年から開始した当協会のホームページを通じての求人案内は掲載希望数が増えており、会員施設の深刻な人材の不足を反映していると思われます。「専門的な人材の育成と供給」の課題は、今後日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団や笹川記念保健協力財団等の支援も受けて長期的に取り組むたいと考えています。2011年 8月27日（土）には東京国際フォーラムで当協会の創立20周年記念大会の開催が予定されています。どうか多くの会員の方がご参集いただきますように、心からお願い申し上げます。

→創立20周年記念大会の詳細は2～3ページに掲載

# 協会は本年10月、創立20周年を迎えます。 記念大会に是非ご参加下さい！

2011年度は総会・年次大会が別日程・別会場で開催されます。

【総会】 2011年 6月18日 (土) 会場：東京ステーションコンファレンス  
【創立20周年記念大会】 (年次大会)  
2011年 8月27日 (土) 会場：東京国際フォーラム

総会・年次大会は、例年同じ会場で二日間に渡って開催しておりましたが、2011年度は上記のように別日程・別会場で開催いたします。

また、2011年10月に当協会が創立20周年を迎えることから、年次大会は「20周年記念大会」として開催されます。記念大会には、施設代表の方だけでなく、スタッフの方々も奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

なお、総会への参加は正会員施設のみが対象となりますので、予めご了承下さい。

## 総会

「正会員対象」

6月18日 (土) 10:30-17:30 (※懇親会はありません)

- ◆分科会
  - 1. 緩和ケア機能評価と改善の取り組みについて
  - 2. 緩和ケア病棟での医師研修指導指針について
  - 3. 看護師教育カリキュラムの改訂について
  - 4. 緩和ケア領域におけるMSW教育プログラム作成について
  - 5. 介護保険改訂に向けた調査結果報告と緩和ケア病棟入院料に関する調査
- ◆総会
  - 1. 会員の入退会について
  - 2. 2010年度事業報告・決算 (案)
  - 3. 2011年度事業計画・予算 (案)
  - 4. 専門委員会活動について
  - 5. 支部活動について
  - 6. 年次大会について
  - 7. ホスピス緩和ケア週間について
  - 8. その他



[サピアタワー (東京ステーションコンファレンス)]

## 20周年 記念大会

「全会員対象」

8月27日 (土) 10:30-17:30 (懇親会18:00-20:00)

大会テーマ：「ホスピス緩和ケア協会20年の歩み、そして、新たなる挑戦」

- ◆大会長挨拶
- ◆DVD上映  
「ホスピス緩和ケア協会20年の歩み」
- ◆基調講演とパネルディスカッション  
「地域社会における協会の活動」  
講演「協会のこれまでの歩みと今後への期待」  
パネルディスカッション  
「専門緩和ケアが果たす役割」
- ◆アフタヌーンコンサート
- ◆特別講演  
「母に歌う子守唄、そして」
- ◆理事長講演  
「ホスピス緩和ケア協会20年の歩み、そして、新たなる挑戦」
- ◆懇親会



[東京国際フォーラム]

# 20周年記念大会

## 大会長挨拶



大会長 高宮有介

当協会創立20周年記念大会の大会長を拝命いたしました、昭和大学の高宮有介です。2011年8月27日(土)に東京国際フォーラムホールBで開催致します。今回の大会は、協会の関東甲信越支部を中心に準備を進めており、当支部代表幹事の私が大会長を務めることとなりました。当支部は、2年前より支部大会を開催しておりましたが、今年は、20周年大会に集中するべく、支部大会は開催せず、幹事会のみで致しました。関東甲信越支部の会員の皆様には、ご理解いただき、多くのご参加をお待ちしております。

1990年に緩和ケア病棟入院料が算定されるようになり、翌年の1991年に6施設が集まり、全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会として発足しました。2004年には日本ホスピス緩和ケア協会と改称し、緩和ケア病棟のみならず、緩和ケアチーム、在宅緩和ケアにも会員を拡充して参りました。大会では、発足当時から苦労や喜びなどを、懐かしい写真や功労者の証言を織り交ぜながら、紹介して参ります。

大会のテーマは、「日本ホスピス緩和ケア協会20年の歩み、そして、新たなる挑戦」であり、基調講演「協会のこれまでの歩みと今後への期待」を柏木哲夫氏にお願いしました。それに続いてパネルディスカッション「専門緩和ケアが果たす役割」を行います。パネリストは、医師、看護師、MSW、薬剤師の立場から、それぞれ新進気鋭の若手にお願いしました。さらに、理事長となられた志真泰夫先生に講演をお願いし、協会の進むべき方向と新たな挑戦を示していただきます。

また、ビジネス的な内容だけでなく、特別講演としては、落合恵子さんに認知症のお母様の介護体験「母に歌う子守歌、そして」をお話しいたします。さらに、癒しの時間として、アカペラグループ「トライ トーン」によるアフタヌーンコンサートも計画しております。懇親会では、関東甲信越支部幹事で皆様の日頃の疲れを和らげ、仕事への更なる勇気とエネルギーを得るよう趣向を凝らしたいと計画しております。一人でも多くの会員の皆様が集うことを願っております。

## 特別講演



### 落合 恵子 おちあい けいこ

作家・クレヨンハウス主宰、東京家政大学特任教授。

1945年生まれ。長い間、子どもや高齢者、女性、障がいのあるひとたちの「人権」をテーマにした執筆や活動を続ける。執筆と並行して、東京青山、大阪江坂に子どもの本の専門店クレヨンハウス、女性の本の専門店ミズ・クレヨンハウス、オーガニックレストラン等を主宰。『母に歌う子守唄』前後編(朝日新聞社)では、この社会における高齢者の居場所について記述。新刊に『絵本処方箋』等多数。

## TRY-TONE トライトーン



女性2名・男性3名の混声ア・カペラグループ。

1994年、ビクターから「エトワール〜12の星物語」でデビュー。

卓越したハーモニーワーク、生き生きとしたリズム、人の声とは思えないヴォイスパフォーマンスなどを用い、音楽のジャンルを問わない選曲、ユニークなアレンジで、トライトーンサウンドを生み出している。笑いあり、涙あり、変化に富んだ心温まるステージは、世代を超えて、多くの人々を魅了する。

海外からの評価も高く、2001年4月、アメリカのCASA (Contemporary A Cappella Society America) 主催、Best Recording Awardsで“アカペラ・マジック・ボックス”が最優秀ジャズアルバムを受賞した。2008年6月4日、ミニアルバム「虹色のハーモニー」(テイストーンレコード) をリリース。

## コンサート

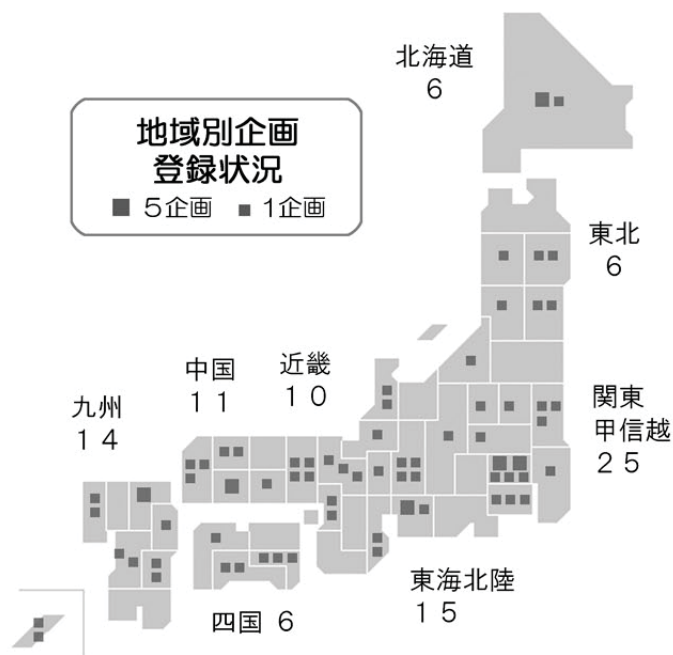
※プログラムは現段階の予定です。参加申込み方法や各プログラムの詳細は、改めてご案内予定です。

日本ホスピス緩和ケア協会では、「世界ホスピス緩和ケアデー(World Hospice and Palliative Care Day)」を最終日とした一週間(2010年度は10月3日～9日)を「ホスピス緩和ケア週間」とし、ポスターの掲示及びセミナーや見学会の実施などを通して、緩和ケアの啓発普及活動に取り組んでいます。

また、厚生労働省が2007年度より日本緩和医療学会に委託している「緩和ケア普及啓発事業」(オレンジバルーンプロジェクトとして活動)に、日本死の臨床研究会、日本ホスピス在宅ケア研究会、日本がん看護学会、日本緩和医療薬学会、日本サイコオンコロジー学会とともに参画し、昨年に引き続き「ホスピス緩和ケア週間」を通して、事業に協力いたしました。

本年度は、全国の協会会員およびがん診療連携拠点病院、日本緩和医療学会の会員より、講演会やパネル展示など93の企画が寄せられ、一般市民、医療関係者など約14,000名の参加がありました。

企画をお寄せいただいた皆様には厚くお礼申し上げますと共に、今年度の実施状況を報告します。



**[当日の様子]** 各企画より提出された写真の一部をご紹介します。

## 北海道



▲がん・緩和ケアのパネル展示  
【NTT東日本札幌病院】

## 岩手県



▲職員によるハンドベル演奏会  
【社団医療法人啓愛会 孝仁病院】

## 東京都



▲市民向けミニレクチャー連日開催  
【JR東京総合病院】

## 東京都



▲薬学生によるイベントでの啓発活動  
【北里大学薬学部】

## 神奈川県



▲公開講座での医療者による寸劇  
【小田原市立病院/ピースハウス病院】

## 石川県



▲遺族サロンでのアートセラピー  
【石川県済生会金沢病院】

## 世界ホスピス緩和ケアデー

2010年度のホスピス緩和ケアデー（World Hospice and Palliative Care Day）には、アジア太平洋地域だけでも45の企画が登録されました。オーストラリアでは、子供のホスピスに入院する患者家族のためのクルージング旅行、シンガポールでは、ライダーによるチャリティー自転車レースやピープメントケアに関するフォーラムの開催、インドではミュージシャンによるチャリティーコンサートや、医師によるホスピス啓発の旅、インドネシアではTVやラジオなどのメディアでの啓発活動、タイでは患者のために願い事を書いた短冊を飾るなど様々なイベントが行われました。各国からの報告はホームページ（<http://www.worldday.org/>）でご覧いただけます。



WORLD  
HOSPICE &  
PALLIATIVE  
CARE DAY

各企画から提出いただいた報告書は、協会ホームページに掲載していますのでご覧ください。

### 大阪府



▲一般市民向けの公開講座  
【淀川キリスト教病院】

### 兵庫県



▲患者・家族の緩和ケアサロン（プラネタリウム上演）  
【神戸大学医学部附属病院】

### 島根県



▲病院ライトアップ  
【松江市立病院】

### 広島県



▲緩和ケア病棟見学会  
【廿日市記念病院】

### 徳島県



▲多職種による模擬カンファレンス  
【徳島県立中央病院・徳島がん対策センター】

### 愛媛県



▲リレーフォーライフへの参加  
【松山ベテル病院】

### 福岡県



▲在宅ホスピスを語る会  
【ふくおか在宅ホスピスをすすめる会】

### 福岡県



▲病院職員によるコンサート  
【公立八女総合病院】

### 沖縄県



▲ヘッドスパ体験講習  
【琉球大学医学部附属病院】

企画内容 ※1つの登録企画内で複数の企画開催有

①一般向けの講演会・フォーラム	4	2	
②医療従事者向けのセミナー・研究会	1	4	
③ロビー・お茶会等でのコンサート	2	2	
④ホスピス緩和ケア関連のパネル展示	1	9	
⑤チラシ・オレンジバルーングッズ配付	1	4	
⑥緩和ケア相談コーナーの設置	1	0	
⑦緩和ケア病棟見学会		8	
⑧音楽療法・マッサージ等の体験		5	
⑨緩和ケアに関するDVDの上映		5	
⑩遺族会・他病棟との職員懇親会等		3	
合計	1	4	2

参加者内訳

一般市民・患者・家族・遺族・学生・保健所職員  
 ・教員・医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー  
 ・宗教家・OT・PT・ST・音楽療法士・栄養士  
 ・臨床心理士・臨床検査技師・放射線技師・介護支援専門員  
 ・ケアマネジャー・事務員・ボランティア 他  
 合計：13,845名（展示会来場者は含まず）

企画参加施設種別

協会会員63施設		会員以外36施設	
協会会員	緩和ケア病棟	4	3
	緩和ケアチーム		2
	一般病院	1	0
	診療所		5
	準会員(法人/個人)		3
会員以外	日本緩和医療学会会員	1	1
	がん診療連携拠点病院		9
	学会会員・拠点病院	1	0
	他(大学・製薬会社等)		6

※共催の場合は各施設を参加施設としてカウント。  
 複数の施設が1つの団体として主催している場合は、代表施設のみを参加施設とした。

2011年度世界ホスピス緩和ケアデー  
 &ホスピス緩和ケア週間

2011年度の「世界ホスピス緩和ケアデー」は、10月8日（土）です。  
 また、2011年は隔年に開催される、歌声で世界を繋ぐイベント「Voices for Hospices」の開催年となります。  
 「ホスピス緩和ケア週間」は世界ホスピス緩和ケアデーを最終日とした、10月2日（日）～10月8日（土）の一週間を予定しています。  
 詳細については8月頃にご案内いたしますが、皆様には引き続き「ホスピス緩和ケア週間」を通じた啓発・普及活動にご協力下さいますようお願い申し上げます。



第9回理事会報告

2010年12月4日（土）、東京国際フォーラム会議室にて、第9回理事会が開催されました。以下に主な内容をご報告いたします。

委員会活動

◆評価委員会（報告者：志真 泰夫）

評価委員会の委員は10名で、委員を部会長とした3つの部会で構成されている。

1. 緩和ケア機能評価部会

部会長：小野充一（早稲田大学人間科学学術院）  
 メンバー：池永昌之（淀川キリスト教病院）、中谷玲二（洞爺温泉病院）、安部睦美（松江市立病院）、柏谷優子（東京医科大学病院）、安保博文（六甲病院）、前田幸宏（日本大学医学部）、中原登世子（早稲田大学人間科学学術院）

活動目標：

- 1) 医療機能評価付加機能への協力に関する具体的な検討
- 2) これまで協会が行ってきた自己評価活動の見直し

主な役割：

- 1) 日本医療機能評価機構との連携窓口
- 2) 「ホスピス緩和ケア評価指針」の自己評価の見直し

現在の活動状況：

- 1) 緩和ケア付加機能評価：Ver. 2による訪問審査が進んでおり、現在までに4施設が受審。協会は、付加機能評価のサーベイヤーとして協力することになり、2010年9月26日に実施された研修会に、理事・支部幹事から希望者を募り、12名が参加。研修会は年度内にもう1回実施予定であり、前回参加できなかった希望者および、委員会からの推薦者への案内を進める。
- 2) 自主評価：①ケアのプロセス評価は、インターネットを使った評価では難しい。これまでの自己評価は、大部分の項目が緩和ケアの付加機能評価に移行しているため、項目を減らす、または削除する。②ストラクチャー部分（人員・設備など）は今後もう少し詰め、インターネットを利用して収集する方向で考えている。

2. 緩和ケアの質に関する調査部会

部会長：宮下光令（東北大学大学院医学系研究科）  
 メンバー：伊藤恵子（豊島病院）、林 章敏（聖路加国際病院）、東 尚弘（東京大学大学院医学系研究科）、佐藤一樹（東北大学大学院医学系研究科）

活動目標：

- 1) 遺族によるケアの質の評価に関する調査の実施および分析
- 2) 緩和ケアの質を評価する臨床指標に関する検討
- 3) 質の改善に向けての提案

主な役割：

- 1) 日本ホスピス緩和ケア協会会員施設を対象とした遺族によるケアの質の評価の調査を実施し、その分析を行う。

- 3) 上記から具体的なケアの改善に結び付く提案を作成する。例えばLiverpool Care Pathway (以下、LCP) の普及に取り組むことなど。LCPはわが国ではリリースされたばかりであり、日本における研究の進捗状況をふまえて普及の可能性を探ることになる。

現在の活動状況：

- 1) 遺族調査：134施設から調査への参加協力が得られ、対象遺族は約13,000人となっている。調査期間は2011年2月までで、6月の総会にて調査結果の概要を報告予定。
- 2) 緩和ケア病棟における臨床指標（クリニカルインジゲーター）：現時点で、ケアの質に関連した臨床指標は国際的にも適切なものはなく、指標を確定することはかなり難しい。例えば、質との関係を重視したものでなく、診療状況を把握するためのインジゲーターという角度でならあり得ると思う。2012年の総会での報告を目標に作業を進める。
- 3) LCP：宮下部会長を中心に日本語版を作成しており、協会加盟施設で今後使用を検討してもらえる機会（支部単位でのワークショップ等）を設けていく。

### 3. 改善プログラム検討部会（仮称）

部会長：本家好文（県立広島病院／広島緩和ケア支援センター）

メンバー：検討中

活動目標：

- 1) 質の保証制度の一環として、評価結果の公表についての具体的な作業の進行
- 2) 各施設における、ケアの質の改善についての取り組み（例：デスカンファレンス、合同カンファレンス等）の把握と、その結果を受けた現場へのフィードバック

### ◆教育支援委員会（報告者：田村 恵子）

教育支援委員会の委員は9名で、委員を部会長とした3つの部会で構成されている。

#### 1. 緩和ケア病棟における医師研修検討部会

部会長：高宮有介（昭和大学医学部）

メンバー：林 章敏（聖路加国際病院）、茅根義和（東芝病院）、三枝好幸（聖ヶ丘病院）、小穴正博（桜町病院）、堀 夏樹（NTT東日本関東病院）

主な役割：

- 1) 緩和ケア病棟での医師研修指導指針の作成

活動計画：

メンバーで作成した研修指導指針について、緩和ケア関連学会より推薦されたレビュアーおよび、理事・教育支援委員にて、内容を検討し、その結果を受けて最終稿を作成し、2011年6月に行われる総会の分科会にて内容を紹介できるよう準備を進める。



#### 2. 看護師教育支援部会

部会長：二見典子（ピースハウス病院）

メンバー：田村恵子（淀川キリスト教病院）、平原優美（あすか山訪問看護ステーション）、山口聖子（順天堂大学医学部附属浦安病院）

主な役割：

- 1) ホスピス緩和ケア看護職教育カリキュラムの改定
- 2) ホスピス緩和ケア病棟看護管理者向けセミナーの企画

活動計画：

- ・ホスピス緩和ケアを専門とする病棟・チーム及び、在宅ケアの看護師の育成支援
- ・カリキュラム改定：既存の内容についてELNEC-J改訂版との整合性を検討し、2011年度中に改定を完了する予定。
- ・管理者セミナー：管理者が、病棟のケア提供システムやスタッフケアの改善・向上の原動力となるための知識・技術・情報共有できるセミナーとする。2011年度中に開催予定。

#### 3. MSW教育支援部会

部会長：福地智巴（静岡県立静岡がんセンター）

メンバー：田村里子（東札幌病院）、橘 直子（山口赤十字病院）、太田桂子（島根医科大学附属病院）、横山幸生（かとう内科並木通り診療所）

主な役割：

- 1) ホスピス緩和ケア領域におけるソーシャルワークに主に従事するMSWの教育支援
- 2) ホスピス緩和ケア領域におけるMSW教育プログラムの作成

活動計画：

2011年1月頃、コンテンツのひな形を検討し、これまで使用しているパワーポイントの修正および追加、講義内容の原稿化などを行い、6月の総会の分科会にて内容を紹介し、会員との意見交換を行う予定。

### ◆健康保険・介護保険検討委員会（報告者：山崎 章郎）

#### 1. 介護保険の改訂に向けた簡易アンケート

【目的】

現在の介護保険にどんな問題があるかを把握するために、「在宅ホスピス緩和ケアの継続が困難であった事例」に関する調査を実施し、介護保険改訂に向けて提案していく。

【調査時期】2011年1～2月予定

【調査対象】

協会会員の診療所と在宅を行っている緩和ケア病棟

【調査内容】

在宅緩和ケアの対象には難病も小児も含まれるが、今回は把握の対象を終末期のがん患者とし、「在宅死に至らなかった事例」に関して、老々介護・経済的理由・若くて介護保険の対象にならなかった等、問題点や改善のポイントなどを調査。

#### 2. 緩和ケア病棟入院料のあり方に関する実態調査

来春以降に取り組みを開始し、総会の分科会で実態調査に関する意見交換を行う予定。

めに、「在宅ホスピス緩和ケアの継続が困難であった事例」に関する調査を実施し、介護保険改訂に向けて提案していく。

【調査時期】2011年1～2月予定

【調査対象】

協会正会員の診療所・訪問看護ステーションおよび在宅診療を行っている緩和ケア病棟

【調査内容】

在宅緩和ケアの対象には難病も小児も含まれるが、今回は把握の対象を終末期のがん患者とし、「在宅死に至らなかった事例」に関して、老々介護・経済的理由・若くて介護保険の対象にならなかった等、問題点や改善のポイントなどを調査。

## 2. 緩和ケア病棟入院料のあり方に関する実態調査

来春以降に取り組みを開始し、総会の分科会で実態調査に関する意見交換を行う予定。

## 支部代表理事懇談会報告（報告：志真泰夫・末永和之）

- ・12月3日（金）、支部代表理事全員及び常任理事が出席し、懇談会が持たれた。末永理事より、懇談会に先立って行った支部代表理事対象のアンケート調査の結果報告があり、続いて各支部代表理事から、支部活動の現状報告があった。問題に取り組みまとまって活動できている支部、カバーする地域的が広く、まとまった活動が出来ていない、あるいは作りにくい支部など様々であり、支部活動をひとつに集約するのはなかなか難しいことが確認された。今回は、各支部の事情が違うということについて共有した。
- ・今後の活動に当たり、下記3点が確認された。
  - ①支部の事務局・事務局長を担当する施設をしっかり決めて、支部事務局を軸にして運営をする
  - ②支部幹事会では支部全体を見渡した討議をし、各年度の重点事業を決める
  - ③事業の申請・報告は支部事務局を通し、本部事務局へ遅滞なく連絡する
- ・支部によっては交通の利便性の問題などで、支部単位での活動が難しいところがある。県単位の活動を支部全体で統括していく案も出され、各支部の特性に合わせて活動を進めていくこととした。



## 年次大会について

### 1) 2011年度年次大会

- ・2011年度は、「総会」と「協会創立20周年記念大会」として、別々に開催する。（詳細は当ニュースレターの2～3ページを参照）

### 2) 2012年度年次大会

- ・2011年度の総会の形式をモデルとし、定例総会とワークショップ、セミナー等を同時開催する方法で準備していく。
- ・これまで各支部に大会長を依頼し、地方で開催してきたが、2012年度は大会運営を本部事務局が担当し、東京での開催を予定している。

## 「ホスピス緩和ケア週間」について

### 1) 2010年度実施報告

- ・詳細については当ニュースレターの4～6ページを参照。

### 2) 2011年度の計画

- ①世界ホスピス緩和ケアデー/Voices for Hospices : 2011年10月8日（土）
- ②ホスピス緩和ケア週間 : 2011年10月2日（日）～8日（土） : 来年度は上記の日程で予定されているので、引き続き協力を呼び掛けていく。

## 日本緩和医療学会（専門的緩和ケア推進委員会）への参加協力

- ・2010年12月23日に開催予定の上記委員会の意見交換会へ、協会から緩和ケア病棟代表として、本家好文理事、緩和ケアチーム代表として山口聖子理事、在宅ケア代表として山崎章郎理事が出席予定。

## その他

### ◆APHC（9th Asia Pacific Hospice Conference 2011）について

アジア太平洋ホスピス会議は2年に一度開催される。来年は7月14～17日にマレーシアのペナンで開催予定。協会と関係が深いので、都合が付く方には奮ってご参加いただきたい。（<http://www.aphc2011.org/>）

### ◆正会員施設スタッフ求人案内の協会ホームページへの掲載状況について

2010年9月1日から受付を開始し、11月15日までに20施設から申し込みがあり、ホームページに「ホスピス緩和ケアのスタッフ求人案内」（[http://www.hpcj.org/staff/st\\_index.html](http://www.hpcj.org/staff/st_index.html)）として掲載が始まっている。人材の供給の問題は医療機能評価でも問題になっており、一度なんらかの形で取り上げて、理事会で集中審議した方が良く考えている。

### ◆「ホスピス・緩和ケア病棟におけるアドバンスケアプランニングに関する全国調査」の協力依頼

平成22年度厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業『緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究』班（班長：筑波大学大学院人間総合科学研究科 木澤義之氏）より依頼の上記調査について、協会として協力することを承認した。





# 寄付報告

当協会では、協会の事業に賛同し、応援して下さる個人や団体からのご寄付を受け付けており、2010年度は4件総額 778,000円（2010年12月20日現在）のご寄付をいただきました。

寄付報告では、これまで個人としてご寄付を下さった方々の思いを、お手紙などから抜粋してご紹介してまいりました。

今回は、毎年チャリティーコンサートを開催され、その収益を協会へご寄付下さっている田中様にご執筆いただいた音楽室「ゆらぎ」の活動と、「森乳スマイル倶楽部」についてご紹介します。

## 音楽室「ゆらぎ」

主宰 田中 巖

2010年11月27日（土）に音楽室ゆらぎ（ホームページ：[www.yuragi-music.com](http://www.yuragi-music.com)）でチャリティーコンサートを開催し、収益を日本ホスピス緩和ケア協会に寄付しました。今回で3回目の催しです。

緩和ケア・ホスピス医療を知ったのは約2年半前のことです。末期ガンで根治が難しいと診断された父は痛みを止める薬を含め1回に10錠以上の薬を飲む生活でした。今思えば、精神的な不安と襲ってくる痛みには耐えなければいけない毎日だったと思います。また、私たち家族としてもどうしてよいのか先行きの全くわからない、眠れない日々が続いていました。

その頃、看護師である知人の助言により緩和ケア・ホスピスの外来相談にかかりました。父はあと一歩で死期を迎える事を悟ったようでした。残された人生について担当医と語り合い、今までの不安・絶望・苦痛のストレスが少し軽くなったようで、泣き崩れていました。その後父は緩和ケア病棟に一月ほど入院し旅立ちました、本人が望んでいたように、病気におかされても普通の自分らしく生きたい希望を大切にもらった最期でした。息を引き取り看護師さんにお気に入りの服を着せてもらったのも家族としては頭の下がるほど感謝しています。音楽室ゆらぎは音楽の普及、音楽家の活動支援をめざして開設しました。また、今年度より緩和ケア病棟でボランティア活動をはじめ、今後更に緩和ケア・ホスピスの理解を深めて行きたいと思っています。



▲ ピアノ演奏  
（丸山いづみ氏）

ホスピス緩和ケア座談会▶  
（左：田中様ご夫妻  
右：協会事務局長 松島）



## ご寄付いただいた方々

田中 巖様（音楽室「ゆらぎ」主宰・東京都）  
森乳スマイル倶楽部（東京都）  
他匿名希望 2名

## 森乳スマイル倶楽部

森永乳業株式会社の従業員の自発的な意思により、無理のない範囲で寄付を募り様々な社会貢献活動への支援を目的に設立された団体で、これまでの活動としては公益法人や国内外の災害による被災者への寄付を行っています。

今回、がんで亡くなられたメンバーより、生前のご意志で倶楽部に寄付があったため、がんに関する活動をしている諸団体への寄付を検討された結果、当協会へお申込みいただきました。

## ご寄付のお願い

私どもの活動は、協会の事業に賛同し、応援して下さる個人の方、団体からのご寄付によって支えられています。皆様の温かいご支援をお待ちしています。

詳細については、

- ①氏名（法人の場合は法人名と連絡担当者名）
- ②住所
- ③電話番号
- ④メールアドレス（お持ちでしたら）

以上を明記の上、郵送またはFAXで事務局までお問い合わせ下さい。関係資料をお送りいたします。

また、メール、お電話でも受け付けております。

直接お振込みいただく場合、振込先は下記の通りです。

### 振込先

三菱東京UFJ銀行 新富町支店  
口座：普通預金 3677396  
名義：特定非営利活動法人  
日本ホスピス緩和ケア協会  
理事長 志真 泰夫



### 入会・施設基準届出受理施設について

2010年7月に行われた総会議事録でご報告して以降、下記の通り入会および新たに施設基準の届出が受理されたとの連絡がありましたので、ご報告いたします。

- ★緩和ケア病棟入院届出受理施設
- ☆緩和ケア診療加算届出受理施設

#### 【正会員・入会】

- ★医療法人社団シマダ 嶋田病院 (福岡県小郡市)
- ★船橋市立医療センター (千葉県船橋市)
- ★岐阜県立多治見病院 (岐阜県多治見市)
- ☆小田原市立病院 (神奈川県小田原市)
- ☆さいたま赤十字病院 (埼玉県さいたま市)
- ☆前橋赤十字病院 (群馬県前橋市)
- ☆がん感染症センター都立駒込病院 (東京都文京区)
  - ・医療法人鶴友会 鶴田病院 (熊本県熊本市)
  - ・茨城県厚生農業協働組合連合会 なめがた地域総合病院 (茨城県行方市)
  - ・独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター松本病院 (長野県松本市)
  - ・医療法人財団城南福祉医療協会 大田病院附属大森東診療所 (東京都大田区)
  - ・いきいきクリニック (神奈川県川崎市)

#### 【正会員・新規届出受理】

- ★(財)東京都保健医療公社 豊島病院 (東京都板橋区)
- ★国民健康保険 小松市民病院 (石川県小松市)
- ★岩手県立磐井病院 (岩手県一関市)
- ☆足利赤十字病院 (栃木県足利市)
- ☆慶應義塾大学病院 (東京都新宿区)

#### 【準会員・入会】

- ・特定非営利法人緩和ケア支援センターコミュニティ訪問看護ステーション“はな” (福岡県福岡市)
- ・吉永 和子 (山口県周南市/徳山中央病院 看護師)

#### 【賛助会員・入会】

- ・永田 智子 (愛知県名古屋市/愛知県がんセンター中央病院 緩和ケア認定看護師)
- ・細谷 有希 (大阪府大阪市/大阪プレストクリニック 理学療法士)

地域別	北海道	東北	関東甲信越	東海北陸	近畿	中国	四国	九州	合計	
正会員	病棟	11	13	56	29	29	18	10	44	210
	チーム	1	1	19	0	5	1	0	1	28
	一般病院	6	5	20	9	5	4	2	9	60
	診療所	2	5	18	1	4	2	1	10	43
	小計	20	24	113	39	43	25	13	64	341
準会員	法人	2	4	9	1	0	3	3	3	25
	個人	2	3	18	6	8	2	1	3	43
	小計	4	7	27	7	8	5	4	6	68
賛助会員	法人	0	1	9	1	1	0	0	0	13
	個人	5	1	15	6	4	1	1	1	34
	小計	5	2	24	7	5	2	1	1	47
合計	29	33	164	53	56	32	18	71	456	

### ホスピス緩和ケアに関する情報について



協会では毎年4月、各正会員へ施設概要の確認をお願いしておりますが、もし、新たに施設基準の届出をされた施設や、所在地・担当者などの登録内容に変更がある場合は、予め事務局 (info@hpcj.org) までご連絡下さいませようお願い申し上げます。  
 なお、協会では、全国の緩和ケアを提供する病棟・チーム・診療所、その他の施設・団体の把握に努めております。新たな緩和ケア病棟の開設などの情報をお持ちでしたら、事務局までお寄せいただければ幸いです。

## ご案内

### ◆協会ホームページに求人情報を掲載しています◆

協会では、ホームページへ正会員施設の求人情報を掲載しています。掲載を希望する正会員施設は、会員専用ページから登録票をダウンロードし、必要事項に記載の上事務局まで郵送して下さい。ダウンロードができない場合は、事務局へお問い合わせいただければ、登録票をお送りいたします。

### ◆協会ロゴマークをご利用下さい◆

正会員施設は、協会会員であることを示すために、病院パンフレットや院内の掲示などにロゴマークを使用することができます。詳しくは会員専用ページをご覧ください。協会事務局までお問い合わせ下さい。使用申請書をお送りいたします。

